

## 2. 現況の整理

### 【人口の推移】

- \*本町の人口は、昭和30年以降は一貫して減少傾向で推移している。
- \*3区分別では、年少人口及び生産年齢人口が減少する中で老年人口は増加傾向で推移してきた。
- \*しかしながら、平成17年をピークに老年人口も減少に転換しつつある。
- \*また、人口減少率は今後一層加速し、平成52年には7千人未満まで減少することが見込まれる（平成22年比約39%減）。

#### 参考：平成22年以降の『対過去30年における人口増減』の比較

<昭和55年（13,841人）⇒平成22年（10,881人）	約21%減少>
<平成2年（12,955人）⇒平成32年（9,256人）	約29%減少>
<平成12年（12,389人）⇒平成42年（7,854人）	約37%減少>
<平成22年（10,881人）⇒平成52年（6,670人）	約39%減少>

《1～9頁参照》

### 【自然増減・社会増減】

- \*本町の自然増減は、平成2年以降は一貫して自然減の状態であり、その数は増加傾向にある（平成26年時点で93人減）。これは老年人口が年少人口を逆転した時期（昭和60年に逆転）でもあり、少子高齢化の進展が伺える。
- \*一方で、社会増減は平成10年以降、社会減（転出超過）の状態であるものの、総人口の減少に伴い、転出・転入ともに減少傾向となっている。
- \*出生数は減少傾向となっており、合計特殊出生率も増減を繰り返しつつ減少傾向にある。

《5～10頁参照》

### 【人口の移動】

- \*年齢別の人口移動では、大学卒業・就職の年齢である20～24歳の転出超過が特に大きくなっている。
- \*男女別の純移動については、前出13頁の図1.12によると、平成25年の純移動は男性が-51人、女性が-37人で男性のマイナスがやや多い。

《11～18頁参照》

### 【産業別の人口】

- \*産業人口は、男性が農業、建設業、製造業、卸売業・小売業の順に多く、女性は農業、医療・福祉、卸売業・小売業、製造業、宿泊業・飲食サービス業の順に多い。また、全国の構成比と比較して農業の割合はかなり高い。
- \*一方で農業従事者の6割程度は60歳以上と高齢化傾向が強く、主要産業における後継者不足が顕著である。

《19～21頁参照》